

学会ニュースNo.101 トピックス

- | | |
|---|--------------------|
| ・2011年度(第66回)総会・研究発表大会のご案内 | ・地理写真展作品の募集 |
| ・2011年度立正地理学会評議員会のお知らせ | ・第39回講演会報告 |
| ・第107回臨地研究会(徳島)報告 | ・卒業生から在学生への応援メッセージ |
| ・地理学教室だより-地理調査法およびフィールドワーク報告(鈴木厚志先生クラス) | |
| ・2010年度卒業予定の学生会員の皆様へ | ・会費納入のお願い |

会告

○2011年度(第66回)総会・研究発表大会のご案内

2011年度(第66回)総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2011年6月4日(土)9:00より
2. 会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ A205 教室
(当日、校内に案内を掲示いたします)
3. 総会委任状について
総会委任状は次号の学会ニュースに同封します。
4. 昼食
3箇所(学生食堂(ステラ・サハー・パドマ)とインターネットカフェ(AC1階))が営業しています。
5. 懇親会
 - 1)会場:立正大学熊谷校舎学生食堂(ステラ)
 - 2)会費:一般 4,000 円、学生 2,000 円
 - 3)時間:17:00~19:00(予定)
6. 発表申込について
 - ・発表希望者は、3頁の発表申込用紙に所定事項を記入の上、2011年4月22日(金)までに集会委員会宛に送付して下さい。
 - ・メールでも受け付けております。申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい。送付先アドレス:geosoc@ris.ac.jp
 - ・発表の形式は、口頭発表とポスター発表です。このほかに地理写真があります。いずれかを選択して下さい。
 - ・口頭発表は発表時間15分、質疑応答5分の合計20分です。
 - ・発表要旨集は作成しません。発表者は必要に応じて発表資料を用意して下さい。
 - ・スライドやOHPの利用をご希望の方は集会委員会までご相談下さい。
 - ・パソコンと液晶プロジェクターはこちらで用意します。プレゼンテーションソフトは

Windows 版 PowerPoint2007 です。Windows で読み込めるフォーマットで USB フラッシュメモリーに保存して、当日会場へご持参下さい。Mac をご使用の場合は予めご連絡願います。

- ・研究発表者は、研究発表要旨を必ずご提出下さい。研究発表要旨は『地域研究』に掲載いたします。『地域研究』の執筆要項にしたがってご執筆の上、大会当日に編集委員会までご提出下さい。

7. 研究発表大会プログラム・会場案内について

研究発表大会プログラム・会場案内については、次号学会ニュース(2011年5月発送予定)、ならびに学会ホームページ(<http://www.ris.ac.jp/geosoc/>)に掲載いたします。

8. 展示について

例年、地理関係出版社の出版案内や図書販売が行われております。個人向けの展示スペースも確保しておりますので、地図等の展示を希望される方は、集会委員会までご照会下さい。

○地理写真展作品の募集

今年も立正地理学会総会・研究発表大会と同時に、地理写真の展示を開催いたします。会員諸氏が自ら撮影し、地域の特徴をよくとらえていると思われる写真の出展をお願いいたします。

出展者は2011年4月22日(金)までに3頁の地理写真申込用紙に所定事項を記入の上、集会委員会宛に送付して下さい。メールでも受け付けております。申込用紙と同一内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい。送付先アドレス: geosoc@ris.ac.jp

作品は、以下の様式にしたがって作成したものを持参し、大会当日に所定の場所へ展示願います。また大会終了後は、各自でお持ち帰り下さい。

【地理写真展 様式】

・A1(594×841mm)の台紙をタテに使用して下さい。

※1 写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。

※2 キャプションには、内容・場所・撮影日時など、撮影時の状況を付記願います。

(作品例)

テーマ	
氏名 (所属)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	

2011年3月

2011 年度 研究発表大会 発表申込用紙

・発表者氏名・所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
・発表題目:
・発表形式(↓いずれかを○でかこんで下さい) 口頭発表 ・ ポスター発表
・連絡先 氏 名: 住 所: 〒 — 電話番号: — — (自宅 ・ 勤務先) E-mail:

2011 年度 地理写真展申込用紙

・氏名(所属)
・テーマ:
・連絡先 氏 名: 住 所: 〒 — 電話番号: — — (自宅 ・ 勤務先) E-mail:

※申込用紙をコピーしてご利用いただくか、立正地理学会ホームページからファイルをダウンロードして下さい。

○2011年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2011年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2011年6月3日(金)18:00より
 2. 場所:立正大学熊谷校舎 アカデミックキューブ A610(6階 会議室)
 3. 議題:1. 2010年度事業報告の件
2. 2010年度決算報告の件
3. 2011年度事業計画案の件
4. 2011年度予算案の件
5. その他(他に議題のある評議員の方は、集会委員までお知らせ下さい。)
- 詳細については、次号ニュースにて評議員の方に同封する出欠ハガキをご確認下さい。

○第39回講演会報告

2010年11月6日(土)、第39回講演会を、徳島地理学会前会長の羽山久男先生をお招きして、徳島地理学会と共催で行った。会場の徳島県徳島市の四国大学交流プラザ第2セミナー室には、30名余りの参加者があった。

「近世阿波絵図と地域像」という題の講演では、徳島県内各地の国絵図、郡図、村絵図、検地・知行絵図など様々なスケールの近世絵図から、空間構造の復原を行い、地域像と空間認識を明らかにする過程が数多くの事例を紹介する中で示された。さらに、絵図に加えて、文献資料、地籍図、空中写真、現地調査を併用することによる資料の総合化、近世絵図を空間軸と時間軸から分析する景観変遷史的視点、歴史地理学と地域史の融合による歴史地誌学的志向の研究など、徳島県内の絵図を基とする研究を取り上げる端々に、今後の歴史地理学研究に対する示唆を含んだ有意義な講演であった。

講演で提示された絵図やトレース図は、講演資料としても配付され、この準備も含めて、羽山先生には、多大な協力をいただいた。最後に記して御礼を申し上げたい。

(集会委員 鈴木重雄)

○第107回臨地研究会(徳島)報告

2010年11月7日(日)、萩原八郎会員(四国大)・横畠康吉会員(四国大)・吉本 勇会員(就実大)・岡山真知子氏(徳島県立鳥居龍蔵記念博物館開館準備室専門学芸員)の案内により、立正地理学会第107回臨地研究会および徳島地理学会巡検を徳島県徳島市で行った。今回のテーマは、「水と光が輝くまち徳島と中心商店街」であり、徳島市の中心市街地と、郊外の文化の森を巡る行程であった。参加者は、両学会併せて25名であった。

午前9時に徳島駅を出発し、路線バスを乗り継いで徳島県文化の森総合公園(文化の森)に向かった。文化の森は県立博物館や美術館、図書館などの文化施設を有す総合施設である。一行は、11月に鳴門市から移転し、開館したばかりの鳥居龍蔵記念博物館を訪れた。

鳥居龍蔵は徳島県出身の日本を代表する人類学者であり、地理学にも多くの功績を残している。博物館には、明治3年に徳島市に生まれ、日本各地に留まらず、中国やシベリア

にも自ら赴き、徒歩で調査を行った記録や写真が展示されていた。加えて、鳥居は日本の文化人類学者で初めて現地の様子を写真に残すという方法を取り入れた人物であり、その当時使われていたカメラや道具の展示から歴史を感じる事ができた。

その後は参加者毎に文化の森内を見学し、博物館や21世紀館、美術館などの展示を通して、徳島の歴史と文化を学び取った。

文化の森を後に、一行は再び路線バスで中心市街地へと戻り、昼食を済ませた後、市街地で巡検を行った。まず、中心商店街である東新町商店街を歩いた。かつては大型スーパーや映画館などが並ぶ徳島随一の繁華街であった商店街も、今はシャッターが閉まっている店や駐車場に代わっているところもあり、寂れた雰囲気を感じる事ができた。また、徳島は横綱白鳳関夫人の出身地であることから商店街の至る所に白鳳関を応援する横断幕がかかっていたことも印象的だった。

次に、商店街のすぐ近くにある、まちなかキャンパスを訪れた。ここは、徳島大学の学生が中心となって地域活性化プロジェクトを推進している拠点である。その活動の一つとして、アトム通貨という商店街や市内で使える独自の通貨を活用した活性化プロジェクトを徳島市と協力して行っている。現在の商店街の衰退の理由としては、郊外への大型店舗の立地という問題と、商店街を構成する商店会同士の結びつきが弱くなり、各店が個々で頑張っているという問題の2つがあり、特に後者について、現況を打開し、手を組むことで、解決を図ろうと活動している。また、まちなかキャンパスのもう一つの活動として、周辺に通う学生に対して、ゼミやサークル活動、就職活動の支援も行っており、月に400名程度の学生が利用しているということであった。

再び商店街に戻り、活性化に一役買っているという「がんばりや」というスーパーを見学した。この「がんばりや」は毎週イベントを開催し、子供にも人気の自作のロボットも展示して、活気があるように感じた。さらに、徳島市中心市街地まちづくり協議会・とくしま情報発信ステーションの方にお話を伺った。ステーションの向かいでかまぼこ店を営んでいる商店会会長も加わり、まちづくりについての当面の活動や、苦労している点など徳島市中心市街地の現況を聞くことができ、地方都市の現状の厳しさが伺えた。突然の訪問にも、快くお話を聞かせていただいた両氏に、この場を借りて、御礼を申し上げたい。

最後に、飲食店やホテル等が立ち並ぶ繁華街を通り、新町川沿いの公園で14時半に解散した。

今回の臨地研究会では、徳島市の発展や現況について、実際の状況や活動を行っている方からの話も聞くことができ、地域発展のために尽力している姿を見ることができた。最後になりましたが、御案内をいただいた萩原八郎会員、横島康吉会員、吉本 勇会員、岡山真知子氏の4名には、記して厚く御礼申し上げます。

(集会委員 好田誠弥)

○卒業生から在学生への応援メッセージ

11月6日(土)の徳島例会において、二人の卒業生に、在学生への応援メッセージをいただくことができました。これも会員間のつながりや友好化を図るためのものです。

一人目の横島康吉会員(四国大)は本例会にて「徳島県におけるデカップリング政策と中山間地域農業について」発表されました。その研究における苦労と在学生へのメッセージを頂きました。

私はこの研究を通じて、農業の地域振興をはかり、徳島県の中山間地域にたくさんの若い方が来てくれることを期待しています。講義などがあり、研究時間を確保することが難しかったですが、休みの日などを利用して調査を行いました。

学生のみなさんには、自分のテーマについて研究するにあたり、広い視野を持ってもらいたいと思います。たくさんの書籍や論文を読んで、幅広い視点から、一つの事象が正しいかどうか判断できるようになってもらいたいです。

また、さまざまな地域を見て、社会全体のしくみまで理解できるように勉強してもらうことを望んでいます。

続いて岡山県立総社南高校で教鞭を執っておられる常井仁美会員にも教員としての心構えや教員を目指す学生へアドバイスを頂きました。

大学では、地理学の中の特定分野について専門性を高めることがほとんどですが、高校の授業では、自然も人文も地誌も扱いますので、自分の専門分野以外の勉強も重要になります。地理学の講義は偏りなく受講しておくことをおすすめいたします。ホームルーム担任や部活動の顧問などを引き受けることになりますので、教職課程の講義やゼミなどで今日的な教育課題について考える機会を多く持つことや、サークル活動を通して、得意分野を伸ばしておくことは有益です。地理学科以外の仲間とともに過ごす時間も、人間としての幅を広げるのに役立ちます。

さまざまな役割を担うことになりますが、どの分掌においてもICT活用能力は必須条件です。今どき当たり前だと思われるかもしれませんが、意外と現場で困っている教員が多いのも事実です。最後に、学生生活を大いに楽しんでください。充実した日々を送った経験が、後の教師人生を豊かにしてくれます。教師を目指す後輩のみなさんを心から応援しています！！



徳島市内(両国橋)にて撮影(松井秀郎会員撮影)

☆地理学教室だより☆

このシリーズも第3回目となりました。今回は、山形県米沢市でフィールドワークを行った鈴木厚志先生と、参加した2年生にその様子を伺いました。

○地理調査法およびフィールドワーク報告(鈴木厚志クラス)

日 時:2010年11月24日~27日

場 所:山形県米沢市

参加人数:地理学科2年生 9名

テーマ:旧城下町の構造と変容

フィールドワークの狙い:地理調査法の授業で学んだ都市調査法の基本を城下町米沢で実践し、自ら得た資料を分析・地図化して都市の地域構造とその変容を理解する

○地理調査法

フィールドワークに先んじて行われる地理調査法の授業(90分×15回)では、その約3分の2を読図作業の時間に充てている。帝国書院編集部刊行の『コンターワーク:地形図学習の基礎』をテキストとし、全ページの内容の解説と作業を行う。これにより、必要な基礎知識と地形図上での地物表現を一通り学習する。本来、高校生の副教材ではあるが、「地理」を履修せず入学する学生も多い。そうした現状にあって、基礎力の定着を図るには良い教材だと思う。残り3分の1の時間は、都市調査法、実習地に関する事前調査、レポートのまとめ方等に充てている。

○フィールドワーク

2年生のフィールドワークは盆地や半島部など、地域的まとまりの明快な場所を実習地にするにしている。宿泊先はその中心都市とするため、結果として旧城下町を拠点にフィールドワークを実施することとなる。地域的まとまりの明快な土地にこだわるのは、初めて本格的なフィールドワークに参加する学生でも、終了時にはそれなりに地域の全体像を把握することができるようになるからである。今回のフィールドワークでは、米沢市を拠点にその中心部と郊外、そして南陽市(宮



紅花染めの実演と米織工場の見学
(株式会社 新田にて)

内地区)でも調査を行った。実施にあたり、4日間にわたり小型バスを借り上げた。一見、高額を予想するが、各人の支払う実習地までの交通費と実習地内での交通費を合算すると、むしろ低額であり、公共交通の限定される地方都市での実習には大助かりである。

2年生のフィールドワークでは、必ず「観察」「測定」「面接」からなる調査を実践する。具体的には、教員の引率による巡検と観察ポイントの指示、都市機能や生活機能の観察による数量化と地図化、聞き取り調査による住民生活の現状や意識の把握である。夕食後のミーティングにおいてそれらを集計・考察し、翌日の調査に備える。調査は2~3名からなる班を編成し行いが、これがきっかけとなり、新たな協力関係の構築や友達作りの場ともなっている。

フィールドワーク終了後、学生は実習内容をレポートにまとめ提出するが、その目次については教員からサンプルを示し、まとめ方や注意点を指導している。近年、レポートのまとめとして必ず地域構造図を作成させている。かつて私自身、服部先生や大塚先生の説得力のある地域構造図に感激したが、今の学生にふさわしいものとして、プレゼンテーションソフトを使用した地域構造図の作成を推奨している。WebGISによる地図をベースに、デジタルカメラによる写真や現地での観察や面接した結果をA3紙面大に工夫してまとめる。以下には、2名のそれを感想ともに掲載する。

太田陸斗君

今回、「旧城下町の構造と変容」をテーマにFWを行った。初めての聞き取り調査など、緊張もしたがよい経験になった。市街地巡検では城下町の面影や豪雪地のまちづくりを見学した。豪雪地帯のまちには興味があり、地元では見られない工夫があった。米沢織工場見学の際の織機も印象に残っている。工夫した点として地域構造図では広域と狭域の地図を使用して、構造の変化を位置的にまとめ、さらにそれらの比較を表にしたことがあげられる。できるだけ少ない写真で的確に表現することが苦勞した点である。



太田陸斗君による地域構造図

伊藤大輝君

今回のフィールドワークでは、城下町ならではの地域構造や冬季の積雪対策など、普段見る機会がないものをたくさん見ることができた。米沢市内にあった直角に曲がった道路はとて印象に残っている。町の至る所にあった流雪溝は、実際に使用されている様子を冬季に再び米沢に行き見てみたいと思った。地域構造図の作成では、写真の配置や色の使い方を工夫した。現地で撮影した多くの写真の中から、良く撮れていて現地の様子が伝わりやすい写真を選ぶのは大変であった。



伊藤大輝君による地域構造図

○今年度卒業予定の学生会員の皆様へ

この3月で卒業される学部4年生・院生の会員の方々には、来年度以降も会員として継続されることをお薦め致します。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。学会ニュースやホームページなどで、学会活動の他、地理学教室の情報などを提供していきます。会員継続をぜひご検討下さい。

継続される方は、事務手続きの都合上、2011年5月20日(金)までに年会費をご納入いただければ幸いに存じます。他大学や大学院などに進学される方は学生会員(2,500円)、それ以外の方は一般会員(4,000円)となります。郵便振替口座の番号・加入者名は下記の会費納入のお願いの項をご参考にお振り込み下さいますよう、お願い申し上げます。

○会費納入のお願い

2010年度分の会費が未納の方には、今回の学会ニュースに「会費納入状況のお知らせ」と「払込取扱票」を同封しておりますので、未納分をご納入下さい。過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は次頁の通りです。

会費および郵便振替口座の番号・加入者名

一般会員 4,000 円 学生会員 2,500 円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下のとおりとなります。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さい。また、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない場合には、どなたのお振込みか不明となります。ご入金の際には、払込取扱票の払込人住所氏名の欄に必ず住所と氏名をご記入頂きますよう、お願い致します。

(庶務会計委員会)

編集後記

まだまだ寒い日も続きますが、早いもので来月から新年度が始まります。今年度は立正地理学会、例会等でたくさんの会員の皆様にお会いすることができました。会員の皆様には貴重な時間のなかで、快くインタビューに応じていただき、有益なお話しをお伺いすることができ、有意義な時間を過ごさせていただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

今後も多くの会員のみなさまに紙面に参加していただき、紙面の充実および活性化を図っていく所存です。広報委員会からインタビューや原稿依頼がありました際はぜひご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

広報員会(学会ニュース班)も更なる紙面充実を目指して努力して参りたいと思います。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。

(広報委員・須田 恵里香)

立正地理学会ニュース No.101

2011年3月15日発行 編集者 立正地理学会広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1637 振替 00130-8-13453